

Artist In Residence Program 2012 Report In SHODOSHIMA

Donald Cameron
name (ドナルド・キャメロン)

genre 絵画

date 2012.5.18 ~ 7.31

profile

1980年生まれ。ニューヨーク出身の画家。ワシントン大学およびクラ
ンブルック芸術アカデミーで絵画を学ぶ。

個展に、「美学的麻酔」(フォーラム・ギャラリー、ミネソタ、2007)、「ヴィ
ジュアル・レトリックと美学」(バックナー=スコップ・ギャラリー、シカゴ、
2007)、「美学と内容」(同上、2010)。そのほかニューヨークなどアメ
リカ各都市でグループ展を開催。

ドナルド・キャメロンが描く作品のテーマは、9.11、四川大地震、、な
ど世界中の悲劇。ニュースの映像や写真は美しすぎて現実とのギャップ
があることに違和感をもち、制作をしている。



▲滞在成果の作品 上から「bologna」「grozny1」「grozny2」

後援メッセージ

土庄町長 岡田好平

ドナルド・キャメロンさんは、ニューヨーク出身の画家で、アメリカ各
都市でグループ展を開催してきました。日本に精通している氏は、今や
世界中で親しまれている日本アニメ等の影響を受けた作品を数多く制作
しており、今回は小豆島の自然を題材とした作品も制作しております。

小豆島の自然、環境及び地域住民との交
流が、作品を通して多くの方に見てい
ただけるとともに、小豆島の地域振興につ
ながることを期待しています。

(Donald Cameron 修了展「挨拶」より)



Donald Cameron AIR プログラム報告

オリーブ生活文化研究所 柳生 陽子

ドナルド・キャメロン。彼が船から降りたときから、その存在は際立っていた。とにかく大きい。そのため、ドナルドが島で使う車も予定していた軽から普通車に変更した。まずは、アトリエと宿泊施設へと案内する。宿泊施設へ案内すると、突然笑い出した。後になって分かったことだが、ドナルドはうれしいと笑うくせがあるらしい。どうやらあまりの景色のよさに、うれしくなったようだ。

アトリエは、数日するといつのまにか土足厳禁の快適空間と化していた。油絵の具のパレットとして使う板ガラスもちょうど良いのが見つかり、他にも使用する台、椅子すべて丁寧に吟味し、制作環境を完璧と思えるほど整えていった。キャンバスも張り、それを6枚ほど壁一面に掛け、同時並行で作品制作を進めていく。ドナルドが事前に考えていた作品に加え、小豆島を題材にした作品も描くことになった。

夜型の彼は、通常、夕方にアトリエにきて夜中（それも明け方に近い）に宿泊施設に帰る。アトリエは海のそば、オリーブの森の中という立地条件にある。滞在期間中にいろいろな生き物たちが、アトリエの光に誘われてやってきたそうだ。ニューヨークと比べ真逆とも思える制作環境で、なにか作品に影響があったか問うてみた。返ってきた答えは、イエス。アトリエと宿泊施設がすぐ近くにあるので、煩わしさがなく、作品制作がはかどること。作品そのものには影響がなかったらしい。

日本語が堪能な彼は、自らすすんで島の人へ声を掛けていたようで、お別れパーティーには小豆島町に滞在中のアーティストインレジデンス作家をはじめ、彼が滞在中に知り合った多くの島民が駆けつけてくれた。お別れパーティーは、彼の修了展のクロージングイベントも兼ねており、彼の作品からインスピレーションを得て、柳生照美・柳生忠平・JAM 平の3人によるパフォーマンスも行われた。

プログラム最終日に、小豆島を題材にした作品2点を土庄町長へ手渡して土庄町へ寄贈、そして多くの人に見送られながら船で島を去っていった。



▲滞在中のワークショップや創作活動等の様子

ごあいさつ

Donald Cameron

あっという間に夏が過ぎようとしています、私は生涯、小豆島で過ごした時間を忘れることはないと思います。この島の息を飲むような美しさ、展示の機会、そしてなにより小豆島の皆さんの親切さ……心より感謝しております。

普段は賑やかな都会に住んでいるので、この島の穏やかな生活で、私は、心の強さや集中力を補うことができました。これから先、アトリエの窓からみていた瀬戸内海の風景を思い返しては、笑みをこぼすことと思います。島民の方々が、社交的で楽しく私を受け入れて下さって、とても嬉しかったです。これから3回目となる個展を控えておりプレッシャーもあります。しかし、小豆島で得た自信とエネルギーをもって挑もうと思います。またこの島で築いた友人関係もかけがえのないものとなりそうです。

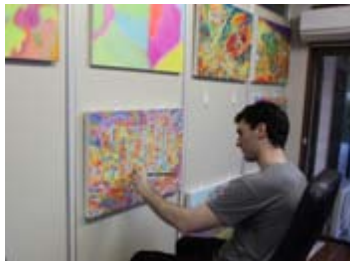
In the blink of an eye this summer has flown by, but I will always remember fondly my time in Shoudoshima. As for my experiences of the breathtaking beauty of this island, the final exhibition at MeiPAM' s magnificent gallery space, and the astonishing kindness of my acquaintances here, I am truly humbled and grateful.

Having lived in frenetic urban environments most of my life, the peaceful tranquility of this location has given me a replenished patience and focus. When I look back I will always be able to smile remembering the vista of the Seto Sea from my studio window. This incredible experience was complimented by a wonderful welcome from the island' s sociable, easygoing residents.

After my departure I will soon begin preparations for a third solo exhibition with Packer-Schopf gallery in one year' s time. Despite feeling enormous pressure, I will return with a renewed confidence and vigor, able to devote myself fully to this next project. I will also happily return with several fantastic friendships, and an amazing experience for which I am profoundly grateful.,



▲滞在成果の作品 上から「sichuan1」「sichuan2」



▲滞在中の創作活動等の様子



▲修了展の会場風景

Donald Cameron 修了展によせて

AIR ディレクター 富田勝彦

4年目を迎えましたNPO法人アート・ビオトープ、NPO法人オリーブ生活文化研究所共催「アーティスト・イン・レジデンス2012公募プログラム」。2011年からジャンルを広げて公募してまいりました。

今展は、USA・ニューヨークより参加しましたDonald Cameronの成果を発表する修了報告展です。5月22日小豆島に入った彼は、本プログラム3人目の外国人で、初の男性、初の「絵画」作家、おまけに最も長身(2m!超)と“初つくし”の作家です。これまで、どの作家も“日本に興味を持って…”の参加ですが、日本語堪能(独学で習得!?)で、とても日本臍眞な彼の参加を嬉しく思います。現在、我が国の文化は広く海外にも知られるようになりましたが、中でも日本のアニメ(所謂ジャパニメーション)、マンガ(世界共通語!)は、世界中の言語に翻訳され発表されており、世界中に多くのファンがいます。それは、その特徴から「COOL JAPAN」の代名詞となっています。5月18日に来日した彼は、まず東京で情報収集。「“おたくの聖地”秋葉原は好きではない(?)」という彼を「大友克洋 GENGA 展」、アニメ、マンガ文化のディープ・スポット「中央線沿線」を案内しました。そこで日本のアニメ、マンガに精通する彼の知識に驚かされました。そして、備品購入と準備を整えてから小豆島に入りました。

ニューヨークという大都会に住み、COOL JAPANを信奉し、大友克洋“アキラ”を敬愛する彼の作品には、日本のアニメ、マンガの影響がみられます。自宅で準備してきたという「プログラム中の制作プラン、アイデア・スケッチ」にも、そんな彼の特徴があります。しかし、予定していた作品のほかに、小豆島の自然から受けたイメージを追加作品として制作しました。

大友克洋、押井守らのCOOLさ、スタジオ・ジブリで表現される日本原風景、アニミズム的な作品、そして庵野秀明の作品が、日本の風土、宗教と文化から発生していることを理解してくれたと思います。このように、外国から参加する作家に“日本(文化)を紹介”し、理解してもらうことが“アーティスト・イン・レジデンスの重要な役割”なのです。“COOL JAPAN”の影響を受けるDonald Cameronのプログラム成果をご高覧ください。そこに、あなたの知らない“外から見た日本”が見えるかもしれません……。

(Donald Cameron 修了展「挨拶」より)



▲滞在成果の作品 上から「new york city」「shodoshima1」「shodoshima2」



▲滞在中の創作活動等の様子